

令和7年度 飯田技術専門校運営協議会 主な意見

日時: 令和7年11月13日(木)

項目	学科・訓練科	構成員からの主な意見	校からの回答・校の考え方
応募・入校に関する事	自動車整備科 木造建築科 共通	<p>建築学科は定員充足しているが、そこから大工を希望する人は少ない。 自動車整備の専門学校への進学が3名、いずれも1級を取得したい意向。</p> <p>技専校を希望する人で、決め手となったのは、「親が了承している」「お金がかからない」「就職してあるいは、就職先が決まり援助して資格取得の機会を与えてもらえる事に対し、縛られることなくもう少し自由に就職先は決めたい」と考えるものもいた。 職場体験不足や体験の機会が少ないことで職業選択に影響。</p> <p>応募、入校生は自動車整備科の充足率は高いが、木造建築科は低い状況。その対策はしているか。</p> <p>若い世代への取組が重要。中学生・小学生が興味を持つような取組を一緒にやりたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・技術専門校は「地元であり通いやすい」「県立の施設のため民間より安価」という点で選択肢になっている。 ・中学校で行われるキャリアフェスに参加し、自動車整備士・大工の紹介を行い、興味関心を高めてもらう取組を実施。 ・令和6年度から小学生対象の体験教室「ものづくりチャレンジ」を開催。若年層へものづくりに興味関心をもっていただけの実施。今後も継続していくためにも、関連団体や事業者等と連携して行っていきたい。
就職に関する事	自動車整備科 木造建築科 共通	<p>令和6年度木造建築科の就職者はほとんどが上伊那への就職だが、出身が上伊那か。 また、全体的に就職は地元就職か。</p> <p>9月の求職者のうち、自動車整備・大工関連に希望者は全体の2%くらい。特に若い方の希望者は少ない。 仕事探しの優先度が、仕事内容よりも、給料・年間休日の多いところとなっている。業界的に、土日祝日などの休みがとりづらいイメージ。</p> <p>応募は少ないが、就職・定着率は良い。親世代が建設業界へ良いイメージを持っていない。団体としても処遇改善を呼びかけたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上伊那出身者が多く、そのまま地元就職した。両科とも地元への就職がほとんどであり、就職率は6年連続で100%である。 ・それぞれの業界では本校の存在を認知されているため、この就職率を継続していけるよう訓練・指導していきたい。
その他運営に関する事		<p>少子化で子どもが減少する中、技術専門校の存続は地域にとって重要。関連団体や事業者と協力してイベントやPRを行うべき。 整備士・大工は災害時にも重要な職業である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域でもニーズの高い職業訓練を実施していると認識している。 ・技術専門校のPRは、単独で行うだけでなく、事業者イベントへの参加や各種団体との協力等による実施も行っていきたい。協力をお願いしたい。